

③ 協働の形態：その他（事業協力）（12件）

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
1	苫小牧市環境美化活動事業 (ゼロごみ推進課)	例年実施 (平成27年頃から継続実施)	苫小牧市内の環境美化を目的とし、市と町内会（自治会）が協働して事業を実施 (1) 地域の大掃除 (2) 不法投棄又は不適正排出のパトロール (3) 文書の配付又は看板の設置等による啓発 (4) 折りたたみ式ごみステーション設置の取りまとめ (5) ごみステーション周辺の清掃又は花壇の設置等による環境整備 (6) 団体間における環境美化に係る意見交換又は協議	町内会・自治会	令和 5年 4月 1日～令和 6年 3月31日 (8,685人)	環境美化活動を町内会（自治会）と協働で実施することで、地域事情に応じた取り組みが可能となり、その結果、市民の環境美化への意識が高まった。
2	「053（ゼロごみ）の日」（春・秋） (ゼロごみ推進課)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	昭和62年度より、大掃除月間中の日曜日を、清潔で住みよいまちづくりのため、自主的に清掃を行い、環境美化と清掃意識の高揚を目的に「まちをきれいにする日」と定めた。以来、全市一斉に付近の道路・公園・空き地などの清掃を実施。 平成24年度から「ゼロごみの日」と改称	町内会、自治会、事業所、学校、子供・老人クラブ等	令和 5年 4月16日～ 5月15日 (86団体 8,354人) 令和 5年10月 1日～31日 (122団体 13,266人)	まちぐるみで清掃活動を行った結果、長期間放置されたごみが拾われ、まちがきれいになったほか、市民の環境美化への意識が高まった。
3	ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！キックオフ (ゼロカーボン推進室)	単年度（新規）実施	2か年にわたり展開する「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦」事業の開始を宣言するとともに、事業者・団体等による展示・体験ブースを多数設け、子どもからお年寄りまで楽しめるイベントとして開催し、まちぐるみでゼロカーボンとゼロごみに取り組んでいく気運の醸成を図る。	苫小牧港管理組合等の全59者	令和 5年 4月30日（約1,500人）	アンケート結果から、回答者の83%がゼロカーボンについて「よくわかった」「少しわかった」と回答しており、本事業の目的である「ゼロカーボンの周知」を果たした。 また、出展者や関係者からは来年度以降も開催してほしいとの意見もある。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
4	地域で学ぼうSDGs！夏休み1日自由研究 (ゼロカーボン推進室)	例年実施 (令和4年頃から継続実施)	実験や座学を通してSDGsを学び、自由研究用の新聞製作をする ①授業：「SDGs」「脱炭素」って何？ ②実験：自転車で発電してみよう！ ③アニメ鑑賞：CCSで地球温暖化を防ぐ ④実験：車の排気ガスをチェック ⑤体験：ゴミの分別を体験 ⑥自由研究：新聞作りにチャレンジ！	主催：(株)北海道新聞社 苫小牧支社 協賛：トヨタカローラ 苫小牧(株) 協力：トヨタ自動車北海道(株)、日本CCS調査(株)、TOMASEIホールディングス(株)、苫小牧市	令和 5年 8月 3日 (20名)	参加した子供たちからは、「SDGsの意味ややり方などがわかり、家でも取り組もうと思いました」「今日学んだことを活かして二酸化炭素を減らしていきたい」「時間があつという間に過ぎていった。とても楽しくて勉強になった」等の声があり、本取組によって子供たちのSDGsや脱炭素への関心が高まった。
5	ゼロカーボン見学ツアー (※旧 身近なゼロカーボン見学会) (ゼロカーボン推進室)	例年実施 (令和4年頃から継続実施)	市内及び近隣の事業所による先導的なゼロカーボンの取組や、エゾシカによる森林被害・捕獲後の活用方法等について学ぶことで、市民のゼロカーボンに対する関心・気運醸成を図る。 ①11月28日(火) トヨタ自動車北海道(株) (90分) ・製造工程、太陽光発電設備等の見学 ・次世代自動車の説明 ・ゼロカーボンに向けた取組の紹介等 ②12月 1日(金) 北海道電力(株)苫東厚真発電所 (90分) ・火力発電所の見学 ・ゼロカーボンに向けた実証・調査事業の紹介 等 ③両日共通 ・エゾシカ森林被害・捕獲事業等について解説(弁天付近)※環境生活課、猟友会協力	トヨタ自動車北海道(株)、北海道電力(株)苫東厚真発電所、(社)北海道猟友会苫小牧支部	令和 5年11月28日 (約20人) 令和 5年12月 1日 (約20人)	アンケート結果より、回答者の全員が環境負荷の低減について「関心を持った」「少し関心を持った」と回答しており、環境保全に対する市民意識の醸成につながったと考えられる。 また、「普段見る事のできないトヨタ工場を見る事ができ、うれしかったです」「なかなか今回のような見学ツアーの参加はなかったので、大変勉強になりました」などの意見が多く、市民の本事業に対する満足度が高かったことがうかがえる。
6	(一社)北海道機械工業会苫小牧支部 定期総会講演会 (テクノセンター)	単年度(新規)実施	苫小牧市テクノセンターの業務・支援内容を紹介するとともに、近年導入した最新の支援機器の概要や活用事例などについて解説した。	(一社)北海道機械工業会 苫小牧支部	令和 5年 4月19日 (19人)	関連する企業関係者に向けてテクノセンターの業務・支援内容や近年導入した最新機器の概要や活用事例などの紹介を行うことで、市の工業行技術支援に関する取り組みについての理解を得ることができた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
7	観光サポーター (観光振興課)	例年実施 (平成26年頃から継続実施)	目的・・・市で協働して観光振興を図る。 内容・・・市内で開催されるイベントへの協力。市の歴史、文化、自然施設を案内する業務。 その他市の観光振興に資するための事業への協力	個人(令和5年度の登録者は13名)	令和 5年 8月 5日～7日 (4人) 令和 6年 2月 4日～5日 (3人)	例年、観光ガイドや通訳の要請があった場合の観光案内や、市のイベント等の受付や案内等の業務に協力いただいている。 令和5年度は観光ガイドの要請依頼(観光案内・通訳)がなく、また、とまこまい港まつり、スケートまつりの運営も人員が足りていたことから協力要請を行わなかった。
8	公園等里親制度(苫小牧クリーンアップサポーター制度から名称変更) (緑地公園課)	例年実施 (平成14年頃から継続実施)	苫小牧市が管理する公園、緑地及び道路等などにおいて市民等のボランティアにより、環境美化活動を行うなかで、清潔で美しい街づくりを進めるため。	25団体、2個人 登録人数 680人(令和5年4月1日～令和6年3月31日)	令和 5年 4月 1日～令和 6年 3月31日 (2,018人)	道路や公園などのゴミ拾い以外にも、パークゴルフ場の草刈や桜の施肥などの活動も行っており、環境美化だけではなく維持管理の充実にも寄与している。
9	宇宙少年団苫小牧分団月例会 (科学センター)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	YAC(日本宇宙少年団)の苫小牧分団により、毎月第2土曜日に子どもたちを対象とした宇宙に関する工作教室等を開催している。様々な宇宙教育実践活動を通じて宇宙への関心・興味を持ってもらい、好奇心や冒険心を備えた創造的な子どもたちを育成することを目的としている。	YAC日本宇宙少年団苫小牧分団	令和 5年 4月 8日 (18人) 令和 5年 5月13日 (14人) 令和 5年 6月10日 (11人) 令和 5年 7月 8日 (14人) 令和 5年 8月12日 (20人) 令和 5年 9月 9日 (15人) 令和 5年10月14日 (12人) 令和 5年11月11日 (21人) 令和 5年12月 9日 (20人) 令和 6年 1月13日 (20人) 令和 6年 2月10日 (24人) 令和 6年 3月 9日 (20人)	宇宙に関連するものを題材とした多彩な内容の工作づくりや宇宙をテーマとする講義などを開催しており、毎回多くの子どもたちが参加している。
10	なぜなにレクチャー (科学センター)	例年実施 (平成22年頃から継続実施)	子どもへものづくりの楽しさを伝え、科学技術に対する興味や夢を育むことを目的として開催している。小学校4年生から6年生を対象に、モーターと発電機のしくみについての学習とハイブリッドカーの製作を行った。	トヨタ自動車北海道(株)、苫小牧工業高等専門学校サイエンス部	令和 5年 7月30日 (70人)	例年の行事として認知も広がってきており、多数の応募者がいる。子供たちは製作に真剣に取り組み、出来上がりに満足していた様子であった。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
11	発明工夫工作教室 「AM/FMラジオを作ろう」 (科学センター)	例年実施 (平成22年頃から継続実施)	AM/FMラジオの組み立てを通じて、子どもたちに電波の仕組みを学んでもらい、ものづくりの楽しさを感じてもらうことを目的として開催している。	日本無線(株)北海道支社、(株)電気工事西川組、苫小牧発明研究会	令和 5年 7月29日 (40人)	参加者からクイズ形式でラジオに関する知識を学んだり、自分で組み立てたラジオを聞いたりすることができて楽しかったとの感想をいただいている。
12	苫小牧市美術博物館ボランティア運営登録事業 (美術博物館)	例年実施 (平成24年頃から継続実施)	美術や博物事業に関する見識や熱意を有する方々の協力を得て、市民と協働した美術博物館活動を組織的に推進し、館事業の円滑な運営を図るため、ボランティア登録制度を導入し、活動を行うために必要な支援を行う。	苫小牧市美術館友の会	令和 5年 4月28日 (22人) 令和 5年 7月14日 (24人) 令和 5年 9月22日 (24人) 令和 5年12月 8日 (24人) 令和 6年 2月 9日 (20人)	各展覧会において、案内・監視業務をしていただいたことで、職員の業務負担が軽減されるとともに、展示室内の変化にいち早く気付き、対処することができた。監視業務においては、来館者の反応や展示に関するご意見を学芸員に伝えていただいたことで、細やかな対応をすることができた。また、年5回実施した研修会では、当館の事業に対する理解を深めていただけたと同時に、展覧会前の展示解説は好評を得ている。